

第2 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 英語以外の外国語については、『筆記』テストを課し、「リスニング」テストは実施しないが、以下のように可能な限り外国語によるコミュニケーション力を評価する。
 - ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する力を引き続き重視する。
 - ・併せて、高等学校において、「聞くこと」・「読むこと」・「話すこと [やり取り], [発表]」・「書くこと」を統合した言語活動の充実が図られることを踏まえ、情報や自分の考えを適切に表現したり伝え合ったりするために、理解した情報や考えを整理したり、何をどのように取り上げるかなどを判断したりする力を重視する。
 - ・また、コミュニケーションを支える基盤となる知識や技能についても、引き続き評価する。
- 問題は、高等学校学習指導要領「外国語」の目標及び内容等に対応したものとし、CEFR 等を参考に作成する。

また、大学教育を受けるために必要な能力を把握できる問題とするが、高等学校において英語以外の外国語を初めて履修する者もいることも考慮し、多様な入学志願者の学力を適切に識別できるようにする。

2 各問題の出題意図と解答結果

ここでは各問題を出題した意図及び解答結果についての問題作成側の見解を述べておく。

第1問 発音及び文法・語彙・表現に関する問題である。全体の難易度及び識別力はほぼ妥当であったと考えるが、受験者が限られたため統計的に有意な判断は難しい。

A 発音変化に関する問題である。問1は終声字「ㅁ」の発音の異同を問う問題であり、問2は濃音化するものを選ぶ問題である。問1は鼻音化の規則が適用されるものと後続する初声が濃音化するものの区別、問2は接続語尾-ㄱが濃音化するかどうかを問うものであった。問1も問2もごく基本的で頻出する発音の変化を問う問題である。

B 空欄を補う問題である。語彙・文法・表現について正しく理解しているかを問う意図があるが、単にある語彙やある文法を知っているか否かを問うのではなく、当該の語彙や文法形態が具体的な文脈において他の単語等とどのように共起し、いかなる意味を実現するかという点に留意して出題した。全体的に、日本語母語話者にとって重要と思われる学習事項を出題するよう心掛けた。

C 語句の整序問題である。韓国語は日本語と語順が非常によく似ているが、直訳できない表現もあるため、そのような表現を中心に韓国語も日本語も自然な表現を問うことに重きを置いた。また、日本語母語学習者にとって重要と思われる学習事項を出題するよう心掛けた。

第2問 日常生活の一場面を素材にして、文脈に沿って対話を完成させる問題と、対話の内容を理解し状況を把握する問題等を作成した。全体的に使われている単語自体は難しくないが、状況を正しく把握する能力が要求される。

A 空港カウンターにおける搭乗客と職員の座席変更をめぐる会話である。やり取りの内容を正確に理解できているかどうかを確かめる問題が中心となっている。

問1 空欄補充問題で、理由に関する表現を入れる問題である。前後の文脈が十分に把握できれば正答を導き出せる。

問2 会話文で使われている単語と、最も近い意味で使われている単語を含む文章を選択する問題である。いずれも基本的な単語で構成された文である。

問3 空欄補充問題で、会話全体の流れが把握できれば正答を導き出せる問題である。

問4 会話文の内容を基に、正確な座席の位置を選択する問題である。会話文を正確に読解できていれば、正答を導き出せる。

問5 会話文の内容と一致する情報の組合せを選ぶ問題で、会話文を丁寧に読むことができれば難なく正答を導き出せる。

B 祖母と孫による、植物や食べ物に関するやり取りである。会話の流れに沿って内容を正確に読み取ることができているかを問う問題が中心である。

問1 空欄補充問題で、提示された会話の内容を正確に読めていれば正答を導き出せる。

問2 空欄補充問題で、前後の文脈を正確に把握するだけでなく、語彙力も問われる。

問3 空欄補充問題で、使用されている語彙は比較的平易である。それぞれ登場人物の発話を正確に把握できていれば、おのずと正答を導き出せる。

問4 会話文の内容を踏まえ、登場人物のその後の行動を問う問題である。会話の流れを正確に把握していれば正答を導き出せる。

問5 会話文の内容と一致する文を選ぶ問題で、登場人物の行動や発言を正確に把握できていれば正答を導ける。

第3問 トーナメント表、製品タグ、広告など、日常生活で目にし得る素材を読み、その内容の理解を問う問題である。読解力や情報収集力を駆使しながら、多様な資料に対して柔軟に対応できるかといった点が問題を解く上で肝要である。問題作成に際して検討を重ねたが、難易度のバランスを含め、全体として適切な出題であったと考えている。

A ある大学の学科対抗サッカー大会のトーナメント表を見て、その情報を正確に把握し、韓国語で書かれた選択肢から適切な説明を選ぶ問題。表内の対戦結果を正確に読み取れば取り組みやすい問題である。

B 水着についているタグから情報を読み取る問題である。

問1 タグの情報と一致する内容を選ぶ問題である。製品の素材や色、製造年月日、交換・補償規定などの情報を適切に把握することで、正答を導くことができる。

問2 タグの情報と合っていない表示を選ぶ問題である。水着の取扱い上の注意事項を正確に読み取ることで正答を導くことができる。

問3 顧客相談室に寄せられた相談内容のうち、水着を購入した相談者の要望が認められるケースを選ぶ問題である。相談内容をタグの情報と照らし合わせて解く必要があるが、タグの情報を細部まで読めば、正答にたどり着くことができる。

C ジュースの広告から商品情報を読み取る問題である。

問1 この商品を利用する積極的な理由が見つけられない人を選ぶ問題である。選択肢と照らしつつ、広告全体の内容を正確に把握することで正答を導くことができる。

問2 この商品の実際のパッケージに書かれる商品説明の一部を選ぶ問題である。この商品説明は広告には書かれていない情報であるため、難易度はやや高めであったが、広告の内容を正確に読み取れば、正答にたどり着くことができる。

問3 広告から読み取れる内容を選ぶ問題である。広告全体の情報を統合して理解して解く必要があるが、選択肢を正確に読み取りつつ、広告の情報を適切に参照することで、正答を導くことができる。

第4問 気候危機に対処するために日常生活の中で実践することのできる方法の一つとして提起

されている気候グルメについて紹介する評論を読み、その内容に対する理解度を問う問題である。本文の全体的な内容を踏まえ、漢字問題、空欄補充、各段落を要約した小タイトルの選択、熟語の語構成、内容一致の問題など、様々な形式の問題を出題した。受験者が極少であったため有意な平均点を参照することはできないが、全体的に適切な出題であったと判断される。

問1 ハングル表記された漢字語の漢字表記を問う問題である。特に難易度が高かったとは思われない。

問2 本文の内容を踏まえて、下線部の内容に相応する最も適当な文を選択する問題である。正確な読解力が問われる。

問3 本文の内容の中で、同一の単語のうち異なった意味内容を持つものを選択する問題である。文脈を正確に読み取る力が問われるが、解きやすい問題である。

問4 本文の内容を正確に把握して、それぞれの段落の内容を表現した小タイトルの組合せとして最も適当なものを選択する問題である。段落の内容を適切に要約できる力が求められる。

問5 四字熟語を構成する二つの要素の間の意味論的關係が同一であるものを選択する問題である。語と語の関係を論理的に把握する力が必要になる。

問6 本文から読み取れる内容にそぐわないものを選択する問題である。単語レベルではなく内容を丁寧に読み取る力が問われる。

問7 本文中の空欄に入れるのに最も適当な文を選択する問題である。内容と文脈を正確に捉える力が求められる。

問8 本文中の空欄に入れるのに最も適当な語の組合せを選択する問題である。本文の内容を適切に把握する力が求められる。

問9 本文中の空欄に入れるのに最も適当な接続詞を選択する問題である。各段落の機能を正確に理解する力が問われる。

問10 本文全体の内容と一致するものを選択する問題であり、本文の内容を正確に理解することが求められる。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

今回の問題も昨年度と同様、コミュニケーションの土台となる発音・文法についての基礎的理解を問う問題、実生活で接しうるような日常的な対話文を読んで内容を理解するとともに、対話の中での適切な表現を選択する問題、資料等を通じた情報を読み取る問題、長文の中に漢字問題を入れ込んだ問題、文脈の適切な理解を問う問題など、これまでの試みを定着させつつ、思考力や提示された情報の適切な理解を問うとともに、コミュニケーション能力を重視して、多様な問題の作成を行うことを念頭に出題を行った。

第1問に関しては発音や文法、語法の知識のみを問う問題であるという批判がこれまでなされてきた。しかし、本部会では、コミュニケーション能力を問う前提として正確な発音・語彙・文法の知識を問うことは学習者にとって必要なことであり、中等教育と高等教育を繋げる共通テストの意義という観点からも妥当性があるという見解を維持している。ただし、高等学校の教育現場でのレベルに対応した問題を作成するための努力は続けていく必要は認識しており、出題方法の検討はこれからも引き続き行いたい。

会話文の出題については、今回、空港での場面、家庭内での家族の対話といった素材を扱うことで日常生活に近接したものとなっている。対話の内容を適切に把握しているかを問う問題を出題するにとどまらず、語彙の細やかなニュアンスを問う問題も組み込んでいる。あわせて、韓国の文化的な内容を会話文の中に入れ込んだ(第2問B)のも今回の試験における一つの試みであった。朝

鮮半島の文化的な文脈の中で、話者の行動を把握する形になっているが、文脈を正確に理解できれば正答を導き出すのは困難ではない。生活文化を入れ込むことで、単に情報交換にとどまらないコミュニケーションの幅を広げる問題となったものと思われる。

実用文の出題については、方式について数年間の試行錯誤を続けているところで、一定の形式ができあがってきたように思われる。表から情報を読み取る問題や、生活に密接した多様な内容を扱う実践的な文章を読むという点は、高く評価されてきており、問題の質についても年々向上してきていると考える。問題中の情報量が多いとの指摘もあるが、正答率等を見る限り、受験者は十分に対応しており、問題の量は基本的には適切であると判断している。

長文問題は、今回も、読解力や思考力を問う論説文のみ1題を出題する体裁を維持した。漢字語や専門用語が多めで難易度がやや高い文章ではある。長文の分量と問題数については、引き続き検討を続けるべき部分ではあるが、得点率は高い。受験者達には今回のレベルの論説文を読んで意味を理解することに大きな負担はなさそうであった。昨年度に続き、今回の問題も、高等学校入学以降から学習を始めた生徒にも解答可能な問題であったと思われる。今後もより一層良質な問題の作成を目指していきたい。

なお、「高等学校教科担当教員の意見・評価」で、「学習指導要領における『韓国語』の学習範囲から逸脱した出題がないよう」にとの依頼があった。

学習指導要領では「生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現、文法などの知識を五つの領域（中略）における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること」が配慮されるべきとしている。

韓国語でも音声・語彙・表現・文法はそれぞれ実際のコミュニケーションで意識すべき内容を扱っており、学習指導要領の取り扱いから外れたものではない。「日本語と英語の語彙や表現、論理の展開などの違いや共通点に気づかせ（後略）」という学習指導要領の方向も意識している。一方、学習指導要領では「過度に文法的な正しさのみを強調したり、用語や用法の区別などの指導が中心となったりしないよう配慮し、（中略）実際のコミュニケーションにおいて活用できるように、効果的な指導」が求められているが、音韻変化は韓国語においては基礎的な学習事項であり、学習の比較的初期段階で学ぶ事項でもある。語尾の多様な用いられ方も実際のコミュニケーションを念頭に置いたものとなっている。

会話文、実用的な情報、長文の論説文についても、「言語活動で扱う題材は、生徒の興味・関心に合ったものとし、国語科や地理歴史科、理科など、他の教科等で学習した内容と関連付けるなどして、英語を用いて課題解決を図る力を育成する工夫をすること」が学習指導要領で要請されており、扱っている素材はその方針から外れてはいない。

全体として、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」を統合的に結び付けた言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す」方向性には沿っているものと、問題作成部会では判断する。

4 まとめ

「共通テスト」開始にあたって実用問題を取り入れる新たな取組がなされて今年度で6年目となった。実用文については年々完成度も高まり、一定程度の形の定着はなされてきたと思われる。これまで課題となってきた発音問題の出題方法については、引き続き検討を続ける必要がある。長文問題は「共通テスト」になって以降、主に論説文から出題されてきたが、エッセイや文学作品、

新聞記事など様々なジャンルの文章を出題できるよう検討していく必要があると同時に、分量や問題数についても引き続き検討が必要である。

全体の分量には常に留意する必要があるが、受験者が分量的には十分にこなせていることが解答結果からうかがうことができる。難易度については、今後もおおむね現在の水準を維持していく予定である。